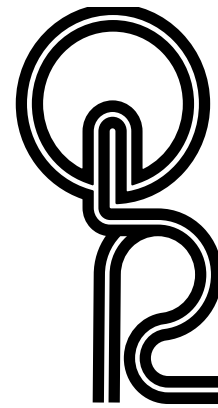


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 10 No.3, 2003



インドネシア・ジャワ島
モジョケルトの原人（ピ
テカントロプス）化石発
掘現場に建てられた記念
碑。同化石の年代として
発表された軽石層 $40Ar/$
 $39Ar$ 年代 $1.81Ma$
(Swisher *et al.*, 1994)
は鮮新世末には東アジア
に原人がいたことを示唆
するが、まだ様々な議論
が続いている。(撮影：兵
頭政幸、2000年10月)

Vol. 10 No. 3

June 1, 2003

2003年合同大会プログラム・・・2	国際会議の案内・・・8
2003年大会のお知らせ・・・4	古生物研連議事録・・・10
研究委員会の募集・・・5	幹事会議事録・・・10
各種募集・・・6	会員消息・・・11

地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会プログラム

オーラルセッション (5 月 2 7 日 201 A 会場)

座長	講演時間	講演者	講演タイトル (ショートタイトル)
宮内崇裕	10:45 ~ 11:00	酒井治孝	ヒマラヤ・チベット山塊と西南日本弧・琉球弧で約 10 0 万年前に始まった山脈の上昇
	11:00 ~ 11:15	付 碧宏、林 愛明 狩野謙一	中国天山地域の第四紀の活褶曲について
	11:15 ~ 11:30	岡田真介、本多 亮 平松良浩	重力異常急変帯と活断層の対応関係
	11:30 ~ 11:45	木村治夫、土志田正二、石川尚人	丹那断層帯周辺部の横ずれ変形と多賀火山・宇佐美火山の古地磁気方位との関係
	11:45 ~ 12:00	中村洋介、金 幸隆 岡田篤正	金沢市街地の河成段丘の形成時期と森本 - 富樫断層帯野町撓曲の上下平均変位速度
	12:00 ~ 12:15	宮内崇裕、三縄岳大 伊藤谷生ほか	反射法地震探査からみた鴨川地溝帯の地下構造と組織地形としての成立過程
	12:15 ~ 13:45	< 昼食・休憩 >	
中里裕臣	13:45 ~ 14:00	輿水達司、内山 高	富士山北麓のボーリングコアの層序および湖の環境変遷史
	14:00 ~ 14:15	宮部俊輔、下山正一 山中寿朗	鹿児島県始良カルデラにおける海水環境の成立過程
	14:15 ~ 14:30	山縣耕太郎 水野一晴	ナミブ砂漠クイセブ川中流域における古水文環境変動
	14:30 ~ 14:45	横尾亮彦、前野 深	鳥海火山猿穴溶岩流における二次爆発の痕跡
	14:45 ~ 15:00	森永速男、武内寛康 平井 昌吾ほか	岡山県蒜山原珪藻土層の磁気層序に基づく火山活動の検出
	15:00 ~ 15:15	鈴木毅彦	会津地域周辺の中期更新世テフラの層序と編年
	15:15 ~ 15:30	< 休憩 >	
山縣耕太郎	15:30 ~ 15:45	中里裕臣、斎藤実篤 平 朝彦	房総半島中下部更新統犬吠層群 250 m コアのテフラ層序
	15:45 ~ 16:00	竹下欣宏、田辺智隆	四阿火山南東麓で見つかった古期御岳火山起源のテフラ
	16:00 ~ 16:15	白井正明、中嶋 健 村山雅史ほか	富山深海長谷自然堤防堆積物より採取された富山沖火山灰の給源と年代
	16:15 ~ 16:30	幡谷竜太、白井正明	浅海性堆積物の OSL 年代測定
	16:30 ~ 16:45	塚本すみ子 綿貫拓野	日本のレスの石英を用いた O S L 年代測定の過小評価の原因とその対処法
	16:45 ~ 17:00	綿貫拓野、Murray Andrew S. 塚本すみ子	OSL dating of Japanese and Chinese loess

(5月27日 コンベンションホールA会場 コアタイム 17:45~18:45)

発表者	発表タイトル
立石 雅昭、山下 阿須佳、大河内 誠	沖縄本部半島頸部の鮮新 - 更新統 - 層序と堆積環境 -
池原 研、田中 晶子	テフラ層序からみた日本海北部の後期第四紀の暗色層の形成
横山 正、島田 愛子、梅村 崇志	神津島流紋岩の ESR 年代測定
島田 愛子、豊田 新、高木 秀雄	シュードタキライトによる ESR 年代測定
田村 糸子、山崎 晴雄	呉羽山丘陵の広域テフラ - 大田 Zn p火山灰, 谷口テフラ, 上宝テフラの認定と挟在層準 -
高橋 直樹、満岡 孝、高野 仁	南関東における第三紀 / 第四紀境界付近のテフラ鍵層 'Kd38' の分布
鳥越 祐司、幡谷 竜太、柳田 誠	海水準変動 1 サイクルの沿岸域における最大侵食評価
楮原 京子	弓ヶ浜半島の完新世地形発達と海岸線変化
平松 由起子、坂井 敬子、卯田 強	新潟平野北東部における扇状地微地形と流路形態との関係
奈良間 千之	中央アジア, パミールアライにおける更新世後期の氷河変動
苅谷 愛彦、佐藤 剛、黒田 真二郎	飛騨山地北部白馬岳・朝日岳周辺の斜面変動地形
幡谷 竜太、鳥越 祐司、柳田 誠	日本列島における過去 10 万年間程度の内陸部隆起量分布と隆起・沈降特性の検討
越後 智雄	変動地形と反射法地震探査からみた北海道中軸部短縮変動帯のアクティブテクトニクス
中西 利典、竹村 恵二、東郷 正美	ボーリング試料分析による養老断層の完新世の活動
土志田 正二、岡田 篤正、竹村 恵二	京都盆地における地下構造の三次元解析
佐藤 裕司、奥野 淳一、加藤 茂弘	西神戸沿岸域の完新世地殻変動と 1995 年兵庫県南部地震の地盤変位量

合同大会全体のプログラム (<http://epsu.jp/jmoo2003/2003prog.PDF>) でも確認できます

第四紀学会2003年大会のお知らせ(第3報)

【ポスターセッション要領】

ポスターは大会期間中掲示できる予定ですが、講演数が多数の場合1日のみの掲示になるかもしれません。詳しくは第四紀通信10-4に掲載されるプログラムをご覧ください。

コアタイムには発表者はその場に立ち会い、説明するものとします。また、ショートサマリー(各2-3分)もあります。

ボード面積は1題あたり、縦180cm、横180cmです。

発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記してください。

ポスターの掲示に使用できるのは画鋏のみです。掲示に必要な画鋏は各自でお持ち下さい。

ポスター会場では、コンピューターやビデオなどを使用した発表も許可しますが、使用する機器に関しては発表者をご準備下さい。延長コードや机などは準備委員会で準備します。

これらの機器をポスター発表で使用される方は、また画鋏では掲示できないもの(例えばかなりの重量があるものなど)を発表に使用される方は、必ず8月18日(月)までに郵送か電子メールで大会実行委員会にご連絡下さい(第四紀学会行事幹事あてではありません)。電話での連絡はご遠慮下さい。

【懇親会】

日時:8月30日(土) 18時から

場所:長居球技場レストラン初亀

参加費(予定):一般:5000円

院生・学生:3000円

懇親会の受付は大会当日に行います。

【巡検】

「大阪南部の大阪層群の地層および大阪平野の沖積層における堆積物と遺構」

大阪南部地域に露出する大阪層群の火山灰層や海成粘土層の観察と、大阪平野で行われてい

る文化財発掘調査現場での沖積上部砂層やそこに残される人間活動の痕跡を観察する。

日程:9月1日(月)岸和田・貝塚地域および大阪平野南部地域

案内者:三田村宗樹(大阪市大)・松田順一郎(東大阪市文化財協会)

集合:大阪市立自然史博物館職員通用口前(8:30) 貝塚市三ツ松(福田火山灰層観察) 岸和田市春木(ピンク火山灰層と撓曲構造観察) 岸和田市はつが野(アズキ火山灰層とMa3層) 東大阪市池島遺跡(弥生時代以後の沖積上部砂層と耕作地跡を中心とした遺構の観察)

解散:16時30分 JR大阪駅

地形図:5万分の1「岸和田」,「大阪東南部」

募集人員:22名

移動:中型バス

参加費用:8000円程度

申し込み方法:

参加を希望の方は、ハガキ、FAXまたはE-mailにて、氏名、所属、連絡先(住所、電話、E-mailアドレス)、すでに定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記のうえ、下記あてに申し込んでください。先着順に受け付けます。電話での受付はいたしません。受付後、個別に案内などをお送りします。なお、参加の確認と参加費の徴収および巡検資料の受け渡しは、学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。巡検のみ参加される方は、その旨をお書き添えください。申し込み先:

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学理学部地球学科 三田村宗樹
TEL:06-6605-2592, FAX:06-6605-2522,
E-mail:mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp

申し込み締め切り:8月11日(月)

大阪大会のホームページ

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geo3/qr2003/index.htm>

研究委員会の募集のお知らせ

研究委員会は、会則第 17 条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループです(末尾の内規参照)。国際第四紀学連合 (INQUA) の研究委員会 (Commission: 分科会 Sub-commission, 作業部会 Working Group を含む) などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的としています。通例、日本第四紀学会の大会前に新規の募集を行い、今回は 2003 年度 (2003 年 8 月 ~ 2004 年 7 月) 新規発足分の研究員会を対象とします。なお、1999 年 INQUA 第 15 回大会で新しく決まった委員会構成を受けて、研究委員会の募集を行います。現在継続中の研究委員会については、再提出の必要はありません。新規に研究委員会を設立する場合のみが対象となります。

新しい委員会の設置を希望される場合は、末尾の内規を参考に、委員会名、代表者名、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数と少なくとも 5 名以上の正会員の提案者名を明記の上、7 月 31 日までに庶務幹事まで文書で申し出て下さい。

提案頂いた委員会は、2003 年 8 月に予定されている評議員会で審議されることとなります。承認され次第、助成金の交付を受けることができます。

庶務幹事 鈴木毅彦

〒 192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室
 Tel 0426-77-2590 (直通) FAX 0426-77-2589
 E-Mail: suzukit@comp.metro-u.ac.jp

日本第四紀学会研究委員会内規 (1992 年 9 月 13 日評議員会)

- 1) 研究委員会は、会則第 17 条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。当分の間、国際第四紀学連合 (INQUA) の研究委員会 (Commission) (分科会 Sub-commission, 作業部会 Working Group を含む) などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的とする。
- 2) 研究委員会の設置は、少なくとも 5 人以上の正会員からの申し出に基づいて、幹事会から評議員会に提案され、評議員会の承認を得るものとする。
- 3) 研究委員会の発足を希望する会員は、委員会名、代表者、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数などを文書で幹事会に申し出るものとする。
- 4) 研究委員会の目的を推進するために、学会は財政的に可能な範囲内で、研究委員会の会議費を 4 年を限度として交付する。
- 5) 研究委員会の任期は当面 4 年間とするが、5 年度以降も会議費の配分を受けずにさらに 4 年を限度として任期を延長することができる。
- 6) 研究委員会は、集会の開催通知や活動記録などを「第四紀研究」に掲載することとし、集会は一般会員にも公開することを原則とする。
- 7) 研究委員会の責任者は毎年年度末までに活動報告および次年度の活動の希望の有無を幹事会を經由して評議員会に文書として提出しなければならない。
- 8) 研究委員会の運営は責任者に一任するが、この内規で処理できない点については、幹事会と協議するものとする。

平成16年度修士課程学生募集説明会のご案内

京都大学大学院理学研究科，地球惑星科学専攻では，当専攻の教育・研究内容と環境を多くの方にお知りいただき，広く人材を求めべく，平成16年度修士課程学生の募集について，次のように説明会を開催いたします．多数のご参加を歓迎します．

- 1) 日時：平成15年6月14日(土)10時--16時
- 2) 場所：10時--12時：キャンパスプラザ京都(京都駅前)第3，第4演習室
14時--16時：京都大学北部(北白川追分町)キャンパスまたは宇治キャンパス
- 3) 概要：午前：地球惑星科学専攻の教育・研究内容の概要と修士課程学生募集についての説明
午後：各分野(教室)と研究所の紹介と案内：北部(北白川追分町)キャンパス(地球物理学分野，地質鉱物学分野)，宇治キャンパス(防災研究所，宙空電波科学研究センター)
- 4) 参加申し込み：参加人数把握のため，できるだけ事前に下記にはがきか電子メールで参加お申し込みください．その際，午後に見学を希望するキャンパスを明記してください．

竹本修三 takemoto@kugi.kyoto-u.ac.jp

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京大理学4号館
京都大学大学院理学研究科地球物理学教室

- 5) 問い合わせ先：竹本修三(地球物理学分野，075-753-3911)または，
平島崇男(地質学鉱物学分野，075-753-4171)

- 6) 参考：

地球惑星科学専攻のホームページ：

<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/deps/index.html>

防災研究所のホームページ：

http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html

宙空電波科学研究センターのホームページ：<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/>
キャンパスプラザ京都のホームページ：

<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

産業技術総合研究所研究職員公募 (活断層研究センター活断層調査研究チーム)

- ・応募番号：地質 - 8
- ・採用種別：若手任期付研究員
- ・応募締切日：平成15年6月6日(金)
- ・採用予定時期：平成16年4月1日
- ・任期：5年(平成21年3月31日まで)
- ・問い合わせ先：TEL029-861-3693
- ・募集概要：古地震学や第四紀学をベースとして地震学との連携を図りながら，断層の相互作用や連鎖的破壊を考慮した活断層研究を目指す研究者を募集する。

- * 社会基盤(地質)・海洋分野の8件の公募に応募いただいた中から5名を採用予定。
- * 応募資格・提出書類等については，産総研ホームページの募集要領詳細(http://www.aist.go.jp/aist_j/employment/employment.html)をご確認下さい。
- * ご応募の際は，応募番号を封筒か又は送り状に記載して下さい。

「国立環境研究所 公開シンポジウム2003」開催のご案内

メインテーマ：「環境研究、次の一手」

内容：現象解明・影響評価・環境技術に関する講演7件及びポスターセッション
日時：

<東京会場>

- ・開催日時：平成15年6月18日（水）10:00～17:00
- ・開催場所：東京メルパルクホール（港区芝公園2-5-20）
- ・アクセス：JR浜松町駅より徒歩10分 / 都営三田線芝公園駅より徒歩2分 / 都営浅草線・大江戸線大門駅より徒歩4分

<京都会場>

- ・開催日時：平成15年6月25日（水）10:00～17:00
- ・開催場所：京都市リサーチパーク（京都市下京区中堂寺南町134）
- ・アクセス：JR山陰線丹波口駅より徒歩5分

参加申込み方法

参加御希望の方は、参加希望会場、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを明記の上、下記あてに、はがき、FAX又はE-mailにてお申し込みください。参加費は無料です。

お問合せ先

国立環境研究所 公開シンポジウム2003 登録事務局
〒107-8476 東京都港区赤坂4-9-17 赤坂第1ビル4F インターグループ内
TEL: 03-3479-6003 / FAX: 03-3423-1601
E-mail: nies2003@intergroup.co.jp
URL: <http://www.nies.go.jp/sympo/index.html>

第7回尾瀬賞募集のお知らせ

目的：「湿原」に関する学術研究を顕彰することにより、この分野の学問的・学際的研究の伸展を図るとともに、環境保護に関する関心を高めることを目的とする。

候補者の対象・資格：個人を対象、グループ研究による業績の場合は代表者による申請とする。湿原に関する研究において、学術的及び湿原保全の見地から優れた業績を上げ、今後の研究の深化が期待される人。研究対象は、「泥炭を有する湿原及びそこを生活の場とする生物」とする。研究対象は、尾瀬ヶ原に限らず日本及び国外の様々なタイプの湿原を対象とする。応募者年齢は、平成15年4月1日現在において、原則として50歳未満。

募集期間：2003年4月1日～9月20日（当日の消印有効）

応募方法・応募用紙請求・注意事項・その他詳細の問い合わせ先：

財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁19階
電話：027-220-4431 FAX：027-220-4421 E-mail：info@oze-fnd.or.jp
ホームページアドレス：<http://www.oze-fnd.or.jp/>

Second IAG Yangtze Fluvial Conference
August 20-28, 2003, Shanghai, China
Second Circular and Call for Abstracts

Organizer

East China Normal University
China University of Geosciences

Co-organizer

International Association of Geomorphologists
Working Group on Large Rivers
Changjiang Water Conservancy Commission, China
Southwest Normal University, Chongqing, China

Background

This follows the very successful Yangtze Fluvial Conference organized by the East China Normal University and the IAG Working Group on Large Rivers in October-November 1999 that resulted in the publication of two special issues of the journal *Geomorphology* in 2001 and 2002. The IAG Working Group on Large Rivers has also organized other meetings since its inception to maintain the research interest and exchange of information on large rivers.

The Yangtze, an exceptionally important river for China, plays a crucial role in landform evolution, transfer of water and sediment from the interior to the coast, and supply of nutrients to the ocean. Its fascinating form and behavior are intricately linked with the monsoon system of climate and large-scale regional tectonics. It is also an excellent example of the interaction between people and nature as reflected in basin land use, water utilization, and large-scale engineering structures on the river.

This conference provides a wonderful opportunity for the diffusion of knowledge regarding large rivers of the world (research results from any river are welcome) and for traveling along a part of the Yangtze Plateau. We sincerely invite you to participate this conference, bringing your idea from your river to share with others. Your participation is essential.

Another post-conference publication should be possible.

Sponsors

China Natural National Science Foundation
East China Normal University
China University of Geosciences

Organizing committee

Chair: Gang ZENG, Dean/Professor, East China Normal University, China
Vice Chair: Fubo WEN, Academician, Changjiang Water Conservancy Commission, China
Mingsheng KUANG, Professor, Southwest Normal University, China
Secretariat: Zhongyuan CHEN, Professor, East China Normal University

Academi Committee

Chair: Hongfu YIN, Academician, China Univer-

sity of Geosciences (Wuhan), China
Co-Chair: Avijit GUPTA, University of Leeds;
Chair, IAG Working Group on Large Rivers

Member

Adrian M. HARVEY, Professor, Department of Geography, University of Liverpool, UK
Andrew J. MILLER, Professor, University of Maryland, Baltimore, USA
Brian FINLAYSON, Associate Professor, The University of Melbourne, Australia
Changqing SONG, Director of Geographic Division of China Natural National Science Foundation
Colin R., THORNE, Professor, University of Nottingham, U.K.
E.M., LATRUBESSE, Professor, Universidade Federal de Goias-IESA, Brazil
Gordon E. GRANT, Professor of U.S. Forest Service, USA
Houze XU, Academician, Institute of Geodesy and Geophysics, Chinese Academy of Sciences
Jijun LI, Academician, Lanzhou University, China
Masataka WANANABE, Professor of National Institute for Environmental Studies, Japan
Richard A. MARSTON, Professor of School of Geology, Oklahoma State University
Yin WANG, Academician, Nanjing University, China
Yoshiki SAITO, Dr. AIST, Geological Survey of Japan

Conference themes

- Fluvial geomorphology and geology
- Impact of drainage basin to Estuary
- Sediment sources, delivery and sink
- Monsoon effects on drainage basin
- Water resources and management
- River hydrology and engineering
- Hazards and environment
- Modeling and GIS
- Human activity and sustainability

Language : English

Location and time

August 20-28, 2003
Shanghai, Wuhan

Field excursion

Two field trips are planned:

- 1) Upper Yangtze plateau: starting from Chengdu (by van/onfoot) to 3000- 4000 m elevated Minjiang plateau (one the six major Yangtze tributaries), where attendees are to observe large-scale alluvial fans; platforms; incised valley; neo-tectonic activities; changes of landuse; deforestation, and world heritage valley "Jiu-Zha-Gou" etc.
- 2) Starting from Chongqing (by boat) to 3-Gorges, attendees are to observe incised valley, alluvial

fans, lesser gorges, hydrology, nature of rock formation, elevated water level of the first stage, new sites of migration, Dam-site, etc.
Detailed information on field trip will be given in 3rd circular or during the conference as Field Trip Guide.

Schedule

- 08/20 Registration (East China Normal University, Shanghai)
 - 08/21 Opening ceremony (Morning); presentation (afternoon); Welcome dinner (6:00 pm)
 - 08/22 Presentation at East China Normal University, China; (late afternoon; fly to upper Yangtze at Chongqin/Chengdu)
 - 08/23-26 Field trip (two-routes; details refers to above)
 - 08/26 China University of Geosciences begins the Yangtze session; Attendees return to Wuhan at evening
 - 08/27 Presentation (China University of Geosciences, Wuhan, closing)
 - 08/28 Return to Shanghai (by morning flight); Departure
- (Dates may be changeable subjective to air-flight to Wuhan on 26 evening)

Costs/financials

US\$800, inclusive of lodging, food and field trip during the field trip. The Conference Organization

keeps low cost for all participants rather than supporting individual. Limited funding is available for participants from developing country, on the basis of selection of abstract/presentation. Please keep contact with zychen@geo.ecnu.edu.cn or Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn

Accommodation

All participants will be housed individually in University Hotel (at three star level, except special request). In field, you may be asked to share with your colleagues for 1-2 night(s).

Abstract

Abstracts should be emailed to the conference Secretariat by May 31, 2003, and addressed to Dr Zhongyuan Chen, Department of Geography, East China Normal University, Shanghai 200062, China
Email: Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn Fax: 86-21-6223 2416 Tel. 86-21-6223 2706

Dr Avijit Gupta (School of Geography, University of Leeds, Leeds LS2 9JT, UK) can also be contacted for clarification regarding submission of abstracts and paper presentation.
Email: avijit@foxhill.demon.co.uk

Note: 3rd circular will be issued at the end of June or early July.

Registration Form

(Please return this form as soon as possible by email to Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn or by fax to 86-21-6223 2416)

Second IAG Yangtze Fluvial Conference
Shanghai, China

Surname _____ Other Names _____

Prefix (select one) Professor / Dr / Mr / Mrs / Miss Male [] Female []

Address _____

Tel _____ Fax _____

Email _____

Provision title of paper (oral presentation)

Provisional title of paper (poster presentation)

Abstract enclosed Yes [] No []

Signature _____ Date _____

第18期日本学術会議古生物学研究連絡委員会第8回議事録

日時：2003年3月6日(木)13:30～17:00

場所：日本学術会議 601室

出席：齋藤 常正会員，野田 浩司，小泉 格，長谷川 善和，八尾 昭，小笠原 憲四郎，辻 誠一郎，西田 治文，大路 樹生，北里 洋各委員

欠席：瀬戸口 烈司，加瀬 友喜 委員

学術課：中野事務官

議 題

1. 前回の議事録の承認

第7回議事録が示され、承認された。

2. 学術会議報告(齋藤)

1) 本来2月に開かれるはずの総会が6月に延期された事を受けて、2月12日には連合部会および第4部部会が開催された。「日本学術会議の在り方」について現状報告があり、議論が行われた。2) 2月26日に総合科学技術会議による「日本学術会議の在り方について」の意見書が出された。昨年11月に中間まとめとして了承された後、パブリックコメントを受けた結果、最終報告としてまとめられたものである。意見書は、中間まとめと異なり、学術会議側が提案したものに近い内容になっており、科学者コミュニティの代表として学術会議を国の機関として位置付け、政府に対する情報提供・提言、科学に関する連絡・調整機能、社会とのコミュニケーション機能を役割としている。また、研究助成機能は外される方向が明示されている。この意見書を受け、国会に学術会議設立に関する法案が提案されることになる。なお、具体的な改革は第19期学術会議において議論される。

3) 第4部部会で、平成15年度代表派遣について審議した。本研連が推薦した小笠原憲四郎氏の Shallow Tethys 会議への派遣が決定した。

4) 第19期総会で研究連絡委員会が再編されることが決定する。古生物研究連絡委員会は1名減少し、11名となる。

3. 第19期古生物研究連絡委員会の組織について(野田)

第19期研連に申し送る新研連組織案を検討した。減少する1名は、新しく立ち上がる研連に確保するように努力することとした。

4. 学芸員科研費申請資格に関して(野田ほか)

博物館学芸員が科学研究費申請資格を受けられるように支援するための、具体的な方策を議論した。自然史学会連合が行っている、博物館館員によるネットワーク活動と連携する。

5. タイプ標本のデータベース化について(小笠原)

1) 第2巻を刊行し、現在、第3巻を編集中であ

る。日本学術振興会科学研究費補助金成果公開促進費に応募した。

2) タイプ標本データベースを産総研Webを通じて公開する事とした。その掲載管理については、日本古生物学会と産総研が覚書を結び、責任を持って履行する。

6. その他

古生物学が社会とどのような関わりを持ち、影響を与えることができるのか、という問題に関し、北里試案(改訂版)が示され、議論された。対外報告として印刷公表する方向でまとめる。

次回は平成15年5月15日(木)13:30からの予定。

2002年度第5回幹事会議事録

日時：2003年3月14日(金)10:30-12:00

出席：熊井久雄，真野勝友，鈴木毅彦，宮内崇裕，町田 洋，中川庸幸

欠席：海津正倫，福澤仁之，河村善也，山崎晴雄，竹村恵二，小田静夫，小野 昭

1. 報告事項

庶務：受入図書(5機関から5冊)，会員動向12・1月分，選挙管理委員会活動報告として塚本すみ子会員が委員長に就任したこと，選挙日程が4月7日：評議員選挙投票用紙発送，5月8日：評議員選挙投票締切などとなった旨の報告 学術会議会員候補者他の評議員による選挙結果として，会員候補者：町田 洋，推薦人：遠藤邦彦，太田陽子，熊井久雄，推薦人予備者：真野勝友の各会員が選出され，学術会議に対して所定の手続きが完了したとの報告。

渉外：地球惑星合同大会のセッション『第四紀』への登録手続きが完了し，口頭発表18件・ポスター発表16件の申込みがあったとの報告。

行事：第四紀通信2号に2003年大会(大阪大会)第2報の原稿を掲載するとの報告。

広報：第四紀通信10巻2号の刊行準備を進めているとの報告。編集委員+編集補佐(アルバイト)の方でも同時に平行して編集作業をすすめる。第四紀通信10巻3号からの編集実務移行に向けた体制を整えつつあるとの報告。

編集：1) 第四紀研究42巻2号の編集を実施中である。ゲラが上がり校正作業を進めている。掲載論文は原著論文2編，短報3編(内英文1編)，書評2編である。2) 原稿枯渇のため，42巻2号の出版が危ぶまれたが，2月12日，第5回編集委員会を開催し，3編を受理した。この結果，2号の原稿が確保できた。3) 現在，受理論文1編(3号以降に掲載予定)，査読中の論文16編。4) 論文

確保のため、2月の評議員会の後に実施したミニシンポジウムに関して、ミニ特集として第四紀研究に掲載することを目指して論文の取りまとめを行うよう、小田静夫氏、松下まり子氏に打診した。5) 第四紀研究 42 巻 3 号 (6 月刊) は昨年夏の大会シンポジウム特集号の予定。6) 次回 (第 6 回) 編集委員会を 3 月 15 日、本郷学士会館分館で開催予定。

会計・企画：とくになし。

第四紀研究連絡委員会：総合科学技術会議による「日本学術会議の在り方について」をめぐる最近の学術会議や研連に関する動きについての報告。
2007INQUA 招致ワーキンググループ幹事会：2 月 15 日に開催された 第 3 回招致ワーキンググループと INQUA 開催時期に関する最近の動きについての報告。

2. 審議事項

とくになし。次回幹事会を 5 月 17 日 (土) とした。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：海津正倫(umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするよう努力していますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会	
名古屋大学環境学研究科	海津正倫
神戸大学大学教育研究センター	松下まり子
福島大学教育学部	後藤秀昭

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。